

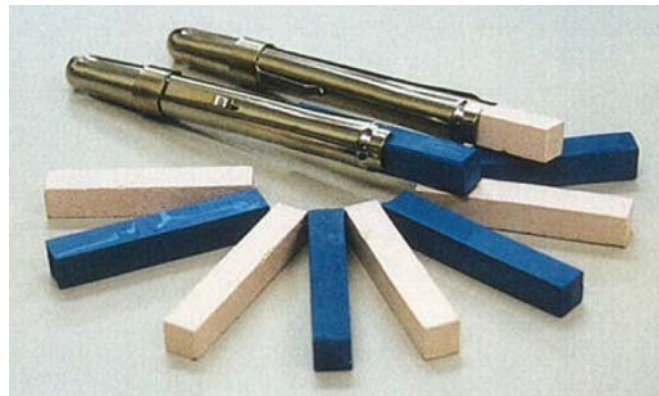
鉄骨工事 Q&A	工事現場溶接	示温塗料	制定	2012年9月1日
			改訂	2016年7月1日

Q. 示温塗料がパス間温度を管理できる原理は？

A.

示温材とは、温度チョークのように所定温度で融解するものとは異なり、物質の組成が熱により変化する現象を利用して温度を視覚で感知できるようにしたものです。こうした示温材の中で、いったん変色すると元に戻らない不可逆性を利用して開発されたものが、示温塗料です。

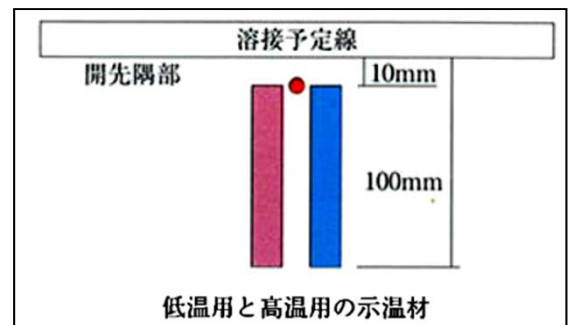
示温塗料はその目的とする温度および加熱時間と加熱速度などに応じて変色します。従って同じ温度といえども、その温度を何度も繰り返すほど、変色域が長くなります。このように示温塗料は変色する長さを制限することで、「熱の総量」を管理するものであり、各パスでの具体的なパス間温度を確認・管理するものではありませんので注意が必要です。各パスのパス間温度の確認・管理には各種温度計や温度チョークを使用します。



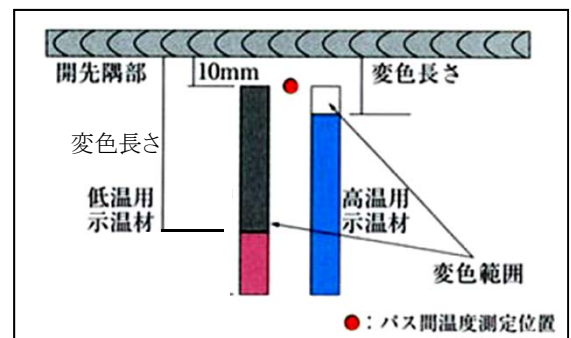
示温塗料 青色:高温用 薄ピンク色:低温用



示温塗料を塗布した使用事例



溶接前の示温塗料塗布位置



溶接後の示温塗料変色長さの測定